

令和7年度 全国学力・学習状況調査 能勢町の結果概要について

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査実施日 令和7年4月17日（木）

3. 調査対象 能勢町立能勢ささゆり学園 6年生及び9年生

4. 調査事項及び内容

(1) 教科に関する調査

6年生：「国語」「算数」「理科」

9年生：「国語」「数学」「理科（CBT）」

※「CBT」とは、「Computer Based Testing」の略で、児童生徒が1人1台端末等、コンピュータを使用して受けるテストのこと。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5. 能勢町の参加状況

▶ 6年生実施児童数 35人

※集計対象児童数 全国；936,576人 大阪；63,086人

▶ 9年生実施生徒数 50人

※集計対象生徒数 全国；870,560人 大阪；58,455人

6. 公表に当たって

- 本町は義務教育学校1校であるため、学力における調査結果の明確な数値による公表は行わない。
- 本調査により測定できるのは、学力や学習状況、生活状況の特定の一部であることに留意する必要がある。

7. 調査結果概要

①平均正答率の府・国との比較

※大阪府比・全国比は、±5ポイント未満は「同等」、5ポイント以上上回る場合は「上回る」、5ポイント以上下回る場合は「課題がある」と表記

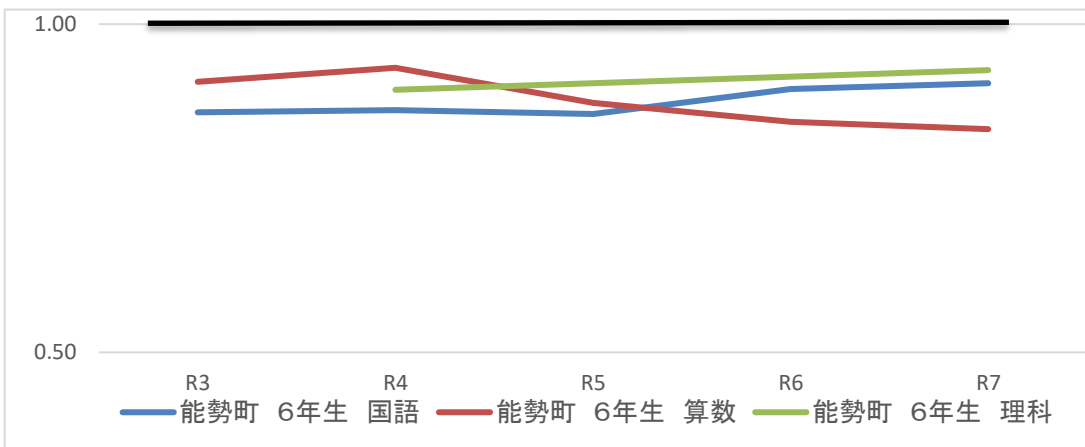
※理科（CBT）は、IRTスコアを参照し、満点を100ポイントとして換算し比較した。

| 区分 | 6年生 | | | 9年生 | | |
|------|-------|-------|----|-----|-------|---------|
| | 国語 | 算数 | 理科 | 国語 | 算数 | 理科（CBT） |
| 大阪府比 | 同等 | 課題がある | 同等 | 同等 | 同等 | 同等 |
| 全国比 | 課題がある | 課題がある | 同等 | 同等 | 課題がある | 課題がある |

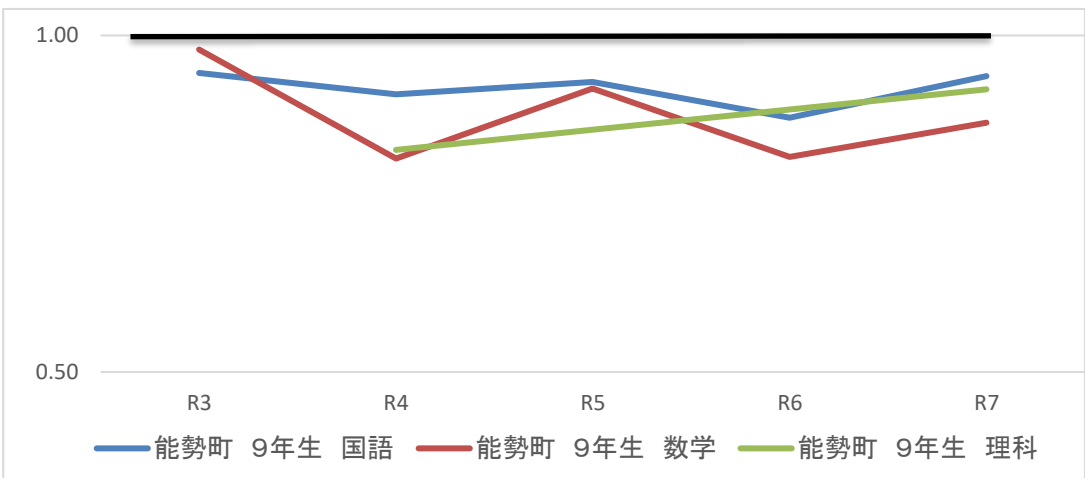
②平均正答率の国との比較

※全国の平均正答率を1としたときの本町各教科平均正答率の推移

・6年生 経年変化



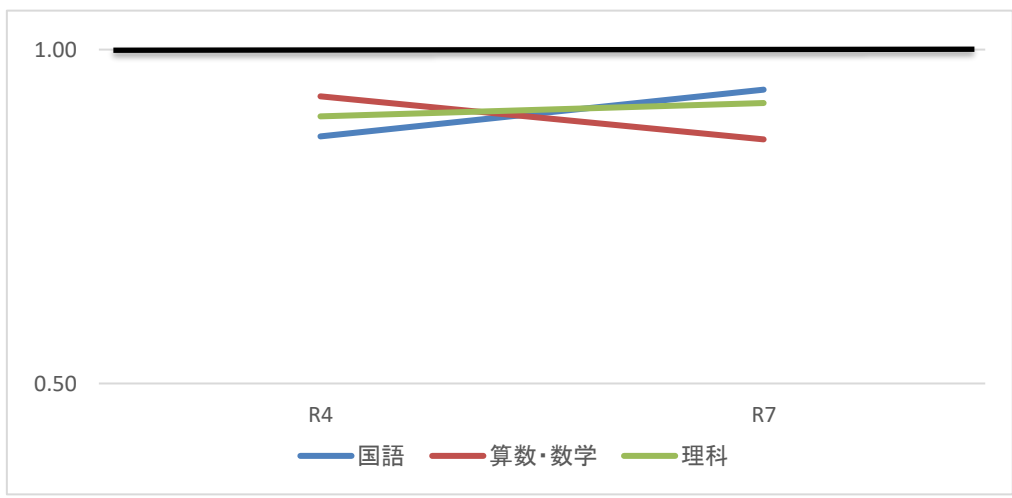
・9年生 経年変化



6年生
○国語・算数・理科
において全国平均に
達していない。

9年生
○国語・数学・理科
において全国平均に
達していない。

・同一集団比較（R4 6年生、R7 9年生）

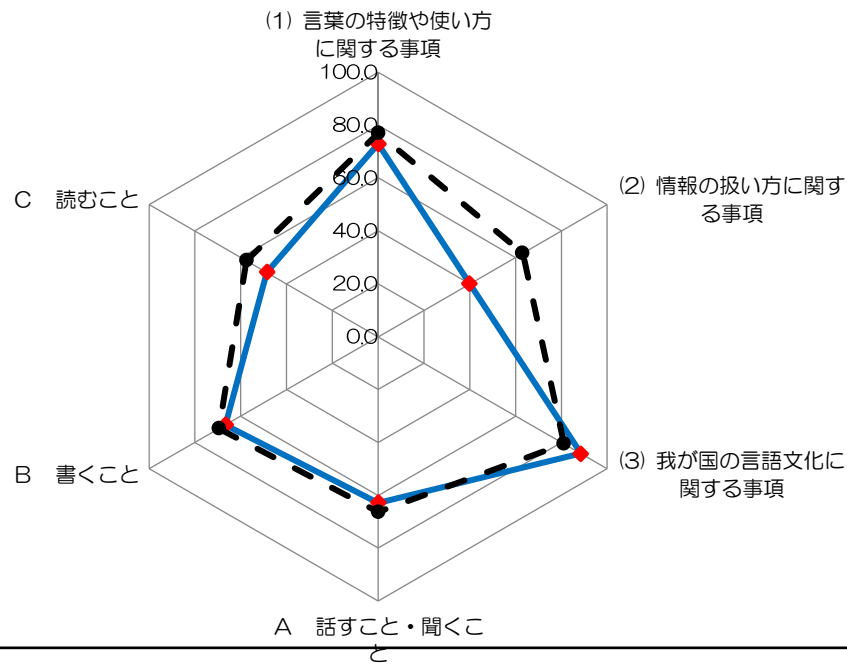


○国語・理科におい
て伸びが見られたも
の、算数・数学に
ついては下降してい

③国語における学習指導要領の内容の平均正答率の状況（％）

【 — ；6年生、 — ；9年生、 — ；全国】

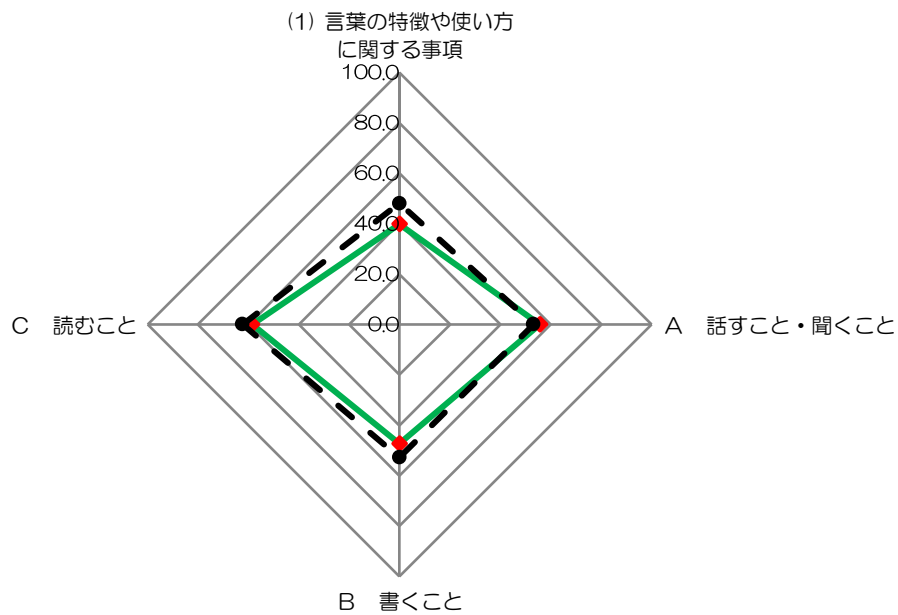
・6年生 国語



○領域による正答率に差が大きい結果となった。情報の扱い方に関する領域については大きな課題が見られたものの、我が国の言語文化に関する領域については全国の平均正答率を上回った。

○「読むこと」の領域についても、少し課題が見られた。

・9年生 国語

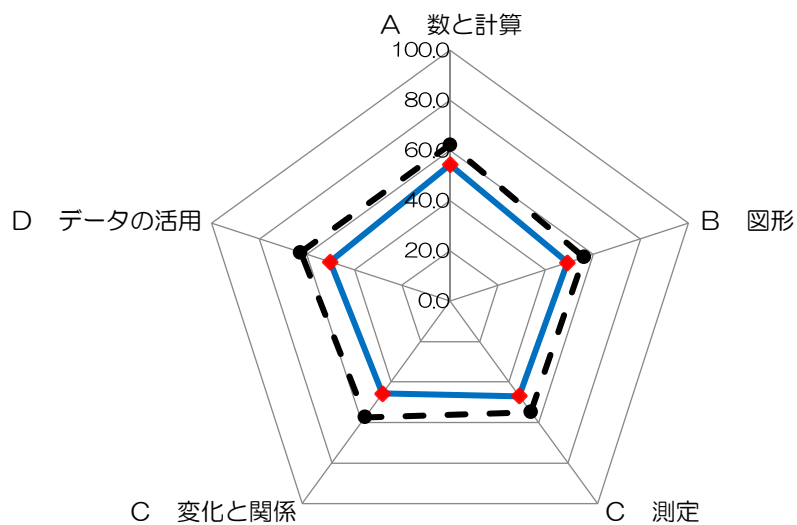


○「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域において全国の平均正答率と同等の結果となった。6年生と反対の傾向が見られた。

○手紙の書き方に関する記述式の設定については、全国・府の平均正答率を大きく上回った。

④算数・数学における学習指導要領の領域の平均正答率の状況（％）

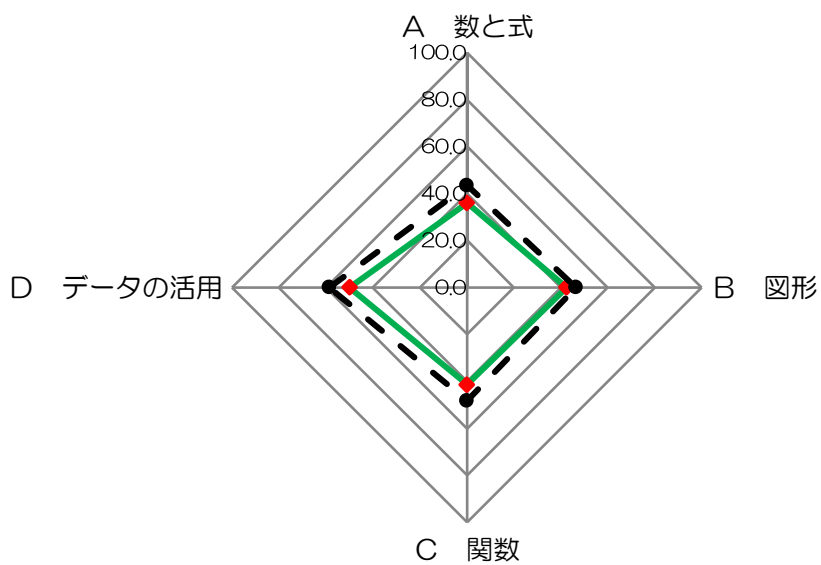
・6年生 算数



○全ての領域において全国、府の平均正答率を下回った。

○グラフや資料、図形を的確に捉えて回答する設問において課題が見られたものが多かった。

・9年生 数学

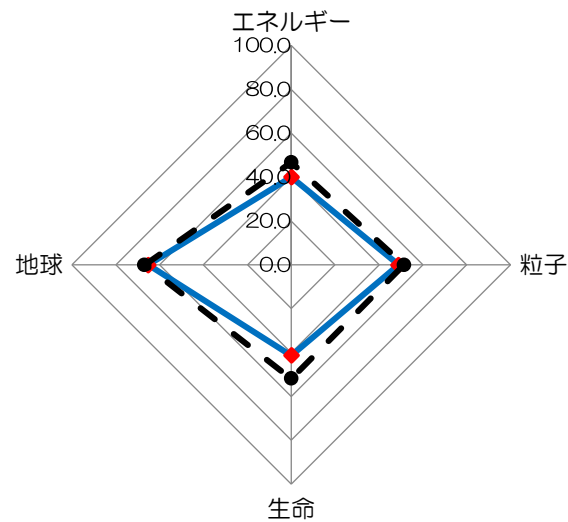


○全ての領域において全国、府の平均正答率を下回った。

○中学1年生で学習する相対度数に関する設問で大きな課題が見られたものの、中学2年生で学習する確率に関する設問では全国・府の平均正答率を比べて同等の結果が見られた。

⑤理科における学習指導要領の領域の平均正答率の状況（％）

・6年生 理科



○「地球」領域において全国の平均正答率と同等の結果となったが、他の領域において、全国・府の平均正答率を下回った。

○選択式の設問で課題が見られた設問が複数あったものの、記述式の設問では全国平均正答率を上回るもの、同等のものが見られた。

・9年生 理科

9年生の理科についてはIRT方式の調査実施だったため、グラフによる状況の図示はしない。

○IRT方式による各領域の傾向について

「エネルギー」領域

いずれの設問についても、全国平均正答率を下回っていた。資料の信頼性に関する出題で府平均正答率よりも高い設問があった。

「粒子」領域

全国平均正答率を上回った設問がある一方で、全国平均を大きく下回る設問もあった。記述式に関する設問で大きな課題が見られた。

「生命」領域

いずれの設問においても全国・府平均正答率を下回った。植物の茎の断面に関する設問で少し課題が見られたが、出題内容や出題形式による大きな課題は見られなかった。

「地球」領域

いずれの設問においても、全国・府平均正答率を比べ、課題が見られる結果となった。特に、記述式の出題において課題が見られた。

※「IRT方式」とは、問題の難易度や出題の配分等から、受験者ごとに異なる問題であっても公平に受験者の能力を測定できる方式を指す。国際的な学力調査や各種検定試験等がこのシステムを採用している。

⑥通過率（％）の状況

通過率とは、「全国学力・学習状況調査において全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における自校の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したもの」である

| | 教科 | R4 | R5 | R6 | R7 | |
|-----|----|----|-----|-----|------|----------|
| 6年生 | 国語 | 75 | 43 | 43 | 71.4 | 5問 / 7問中 |
| | 算数 | 66 | 71 | 57 | 66.7 | 4問 / 6問中 |
| | 理科 | 40 | | | 66.7 | 2問 / 3問中 |
| 9年生 | 国語 | 88 | 63 | 100 | 80 | 4問 / 5問中 |
| | 数学 | 25 | 100 | 60 | 50 | 1問 / 2問中 |
| | 理科 | 50 | | | 100 | 5問 / 5問中 |

⑦成果や課題が見られた設問

→以下の設問から見られた課題の詳細や分析については、⑨にまとめて記載する。

6年生 国語

▶漢字の書きに関する問題

「あついでに、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。」

3年生で学習する漢字

正答 **暑**

▶目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題

(1) 「話し合いの様子」の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

4 (資料1)の部④
3 (資料1)の部③
2 (資料1)の部②
1 (資料1)の部①

「線部の内容を確認するには、問題冊子を4ページ遡る必要がある。必要な情報がどこにあるのかを的確に捉える力が問われている。」

「雨模様」の意味のとりえ方

| 世代 | 雨が降りそうな様子 | 小雨が降ったりやんだりしている様子 |
|--------|-----------|-------------------|
| 16-19歳 | 50.4 | 31.9 |
| 20代 | 43.5 | 42.9 |
| 30代 | 53.7 | 34.1 |
| 40代 | 53.9 | 33.4 |
| 50代 | 61.2 | 26.1 |
| 60代 | 52.6 | 33.6 |
| 70代以上 | 46.2 | 39.8 |

（文化庁「令和4年度国語に関する世論調査」による。）

【資料1】 「話し合いの様子」

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、「資料1」を読み返しています。次の「話し合いの様子」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【資料2】 「話し合いの様子」

「話し合いの様子」

「資料1」には、「言葉が変化していることが書かれていたよ。」「資料1」には、「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料3】 「話し合いの様子」

私は、この資料（「資料4」）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいが分かっていくよ。

【資料4】 「話し合いの様子」

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

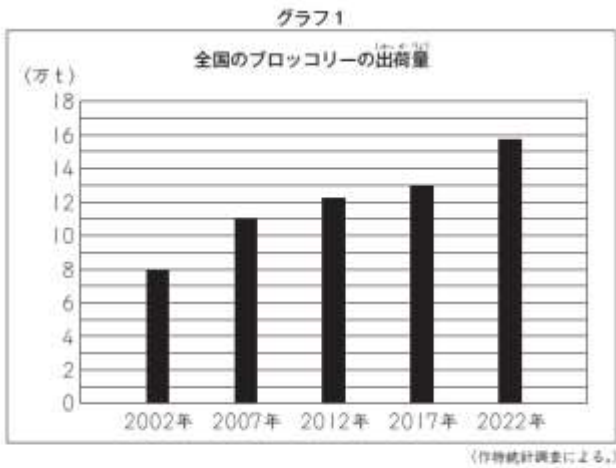
【資料1】 「話し合いの様子」

こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、「資料1」に「A」と書かれているとおもうよ。

木村さん、田中さん、木村さん、田中さん、木村さん

6年生 算数

▶棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題



グラフ1からわかることを、次のようにまとめます。

2022年の全国のブロッコリーの出荷量は、2002年の出荷量の約 倍になっています。

上の○に入る数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.5
- 2 2
- 3 8
- 4 16

資料から必要な情報を見つけ、解答する出題。

▶「10%増量」の意味を解釈し「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表せるかをみる問題

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の○にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

6年生 理科

▶発芽するための必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現できるかをみる問題。

たかひろさんたちは、インゲンマメの発芽の条件について調べたことを思い出し、次のように、ヘチマの発芽について調べることにしました。

【問題】ヘチマの種子は、どのような条件で発芽するのだろうか。

【予想】インゲンマメの種子と同じように、水、空気、適した温度（室温）といった条件で発芽すると思う。

【方法①】水が必要か調べる。

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>しめらせた だし鉢</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水あり 空気あり(種子が空気にふれている) 温度(室温) 日光なし(箱をかぶせている) 肥料なし | <p>かわいた だし鉢</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水なし 空気あり(種子が空気にふれている) 温度(室温) 日光なし(箱をかぶせている) 肥料なし |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【方法②】空気が必要か調べる。

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>しめらせた だし鉢</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水あり 空気なし(種子が空気にふれていない) 温度(室温) 日光なし(箱をかぶせている) 肥料なし | <p>水</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水あり 空気あり(種子が空気にふれている) 温度(室温) 日光なし(箱をかぶせている) 肥料なし |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【方法③】適した温度(室温)が必要か調べる。

| | |
|---|---|
| ケ | コ |
|---|---|

(3) 【方法③】のケとコは、それぞれどのような条件で実験すればよいですか。ケとコにあてはまる実験を、下の1から4の中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="radio"/> 1 <p>しめらせた だし鉢</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水あり 空気あり(種子が空気にふれている) 温度(室温) 日光なし(箱をかぶせている) 肥料なし | <input checked="" type="radio"/> 2 <p>しめらせた だし鉢</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水あり 空気あり(種子が空気にふれている) 温度(定温) 冷蔵庫の中(約5℃) 日光なし(箱をかぶせている) 肥料なし |
| 3 <p>水</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水あり 空気なし(種子が空気にふれていない) 温度(室温) 日光なし(箱をかぶせている) 肥料なし | 4 <p>しめらせた だし鉢</p> <p>(条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水あり 空気あり(種子が空気にふれている) 温度(室温) 日光あり(直接日光が当たらない明るい所) 肥料なし |

たかひろ: 実験の結果から、ヘチマの種子も、水、空気、適した温度といった条件が必要だったよ。

9年生 国語

▶一:漢字を正しく使えるかをみる問題 二:目的に応じて集めた材料を整理し伝えたいことを明確にできるかをみる問題

【ちらし】

一 中井さんは、【ちらし】の「観部「かいしん」を漢字に変換しようとしています。漢字に変換したものとして最も適切なものを、次の1から3までの中から1つ選びなさい。

- 1 台心
- 2 改心
- 3 改新

同音異字の使い分けに課題

二 中井さんは、【ちらし】に、【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】には示されていない「会場図」を加えました。どのような目的で加えたと考えられますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 小学校6年生に向けたちらしであることを示すため。
- 2 ウェブページの情報と比較しやすくするため。
- 3 会場となる体育館まで迷わずに来てもらうため。
- 4 展示する作品と体験コーナーの内容や配置を伝えるため。

前頁の資料と比較して考える。

▶読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えられるかをみる問題

※ 解答例は割愛
8年生で地域事業所インターンシップを行った際に、事業所へのお礼の手紙を国語科の学習と関連付けて実施した。

二 三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、「手紙の下書きの一部」の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方を参考に、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考える部分の一つを選ぶこと。なお、「手紙の下書きの一部」の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【手紙の下書きの一部】

先日、ご協力いただき、誠にありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでしたが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりするを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

4 三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の大野さんに、お礼の手紙を書いています。次は、三上さんが推敲している途中の「手紙の下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

9年生 数学

▶ 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題

5 下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

| 階級(m) | 度数(人) |
|-----------------|-------|
| 以上 未満 5 ~ 10 | 3 |
| 10 ~ 15 | 8 |
| 15 ~ 20 | 9 |
| 20 ~ 25 | 10 |
| 25 ~ 30 | 6 |
| 30 ~ 35 | 3 |
| 35 ~ 40 | 1 |
| 合計 | 40 |

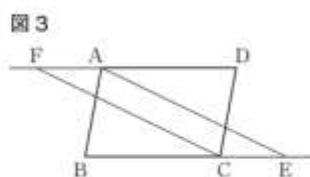
「相対度数」は7年生の学習内容

20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求めなさい。

正答 0.25

▶ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかをみる問題

(3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、BE = DFとなる点E、Fをそれぞれとります。



このとき、四角形FCEAは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明 2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $FA \parallel CE$ ……①
 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②
 仮定より、
 $DF = BE$ ……③
 ②、③より、
 $DF - AD = BE - BC$ ……④
 ④より、
 $FA = CE$ ……⑤
 ①、⑤より、
 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形FCEAは平行四辺形である。

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとすると、四角形AGCHも平行四辺形になります。

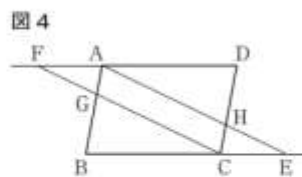


図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

解答例

説明 (例) 平行四辺形ABCDの向かい合う辺は平行であるから、
 $AB \parallel DC$
 よって、 $AG \parallel HC$ ……①
 平行四辺形FCEAの向かい合う辺は平行であるから、
 $FC \parallel AE$
 よって、 $GC \parallel AH$ ……②
 ①、②より、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であるから、
 四角形AGCHは平行四辺形である。

「平行四辺形の証明」は8年生の学習内容

9年生 理科

▶ 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデル表すことができるかをみる問題



ドライアイス（二酸化炭素）の中で、マグネシウムは燃焼するでしょうか。動画を見て、図を参考にしてその結果を考察しましょう。



動画



図

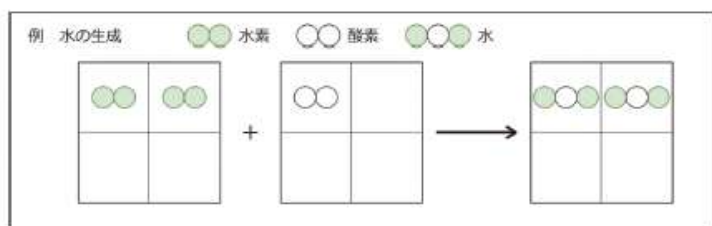
CBTによる実施。実験動画を見て答える設問。



二酸化炭素の中では、火は消えると思いましたが、**燃焼しました**。何が起きているか、化学変化をモデルで表しました。

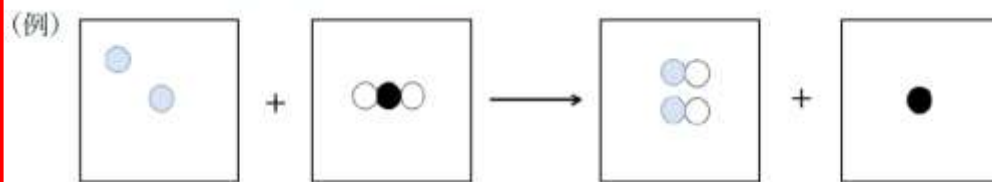
(2)

マグネシウム原子●、二酸化炭素○●○、酸化マグネシウム●○●、炭素●と表したとき、下線部の化学変化はどのように表すことができますか。「例 水の生成」を参考にして、□にモデルを移動して、化学変化をモデルで表しなさい。
なお、使用しないモデルもあります。



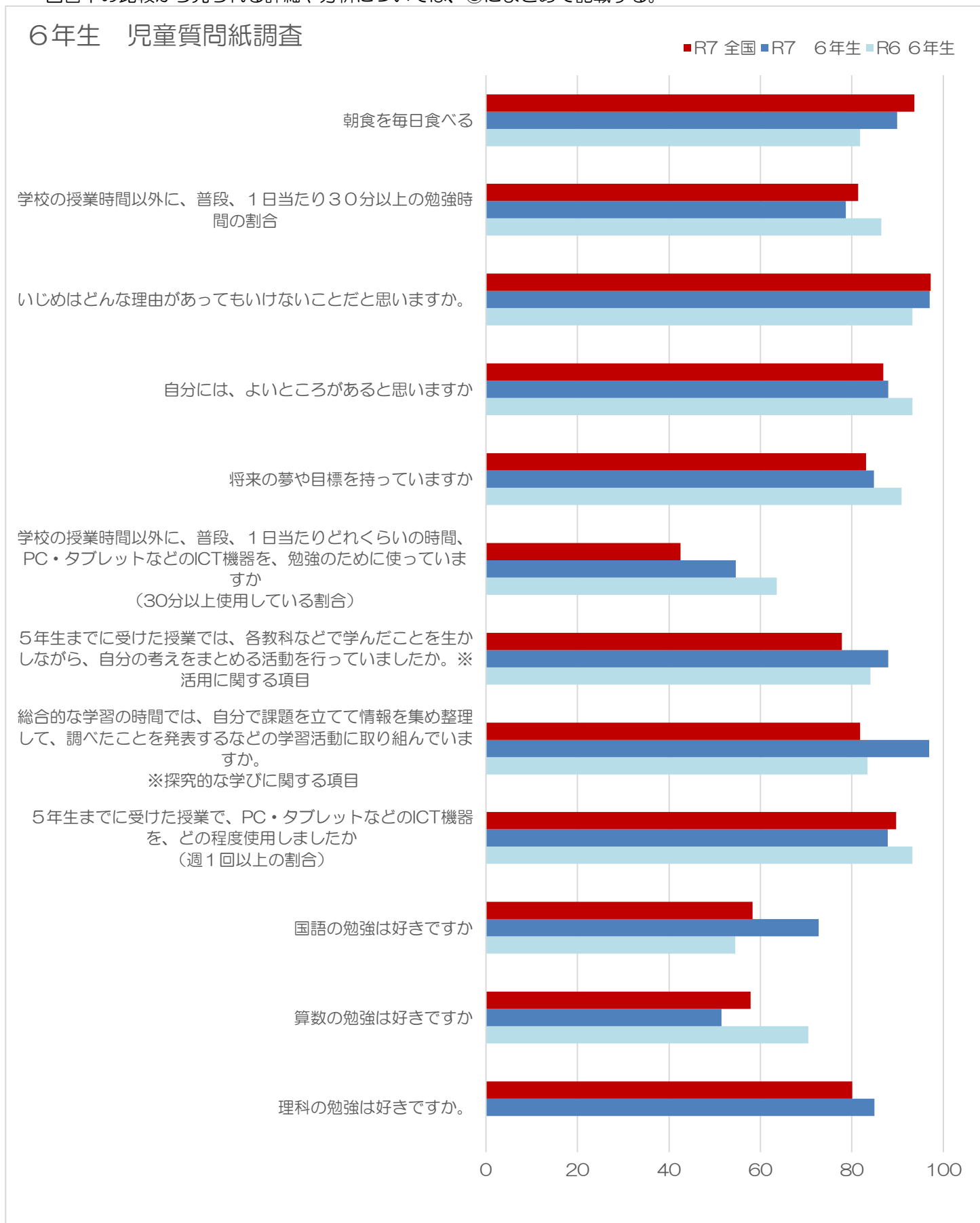
解答例

物質を正しく化学式のモデルで表し、化学変化の前後で原子の種類と数が変化していない。かつ、モデルの数は、最も簡単な整数比で表されている。



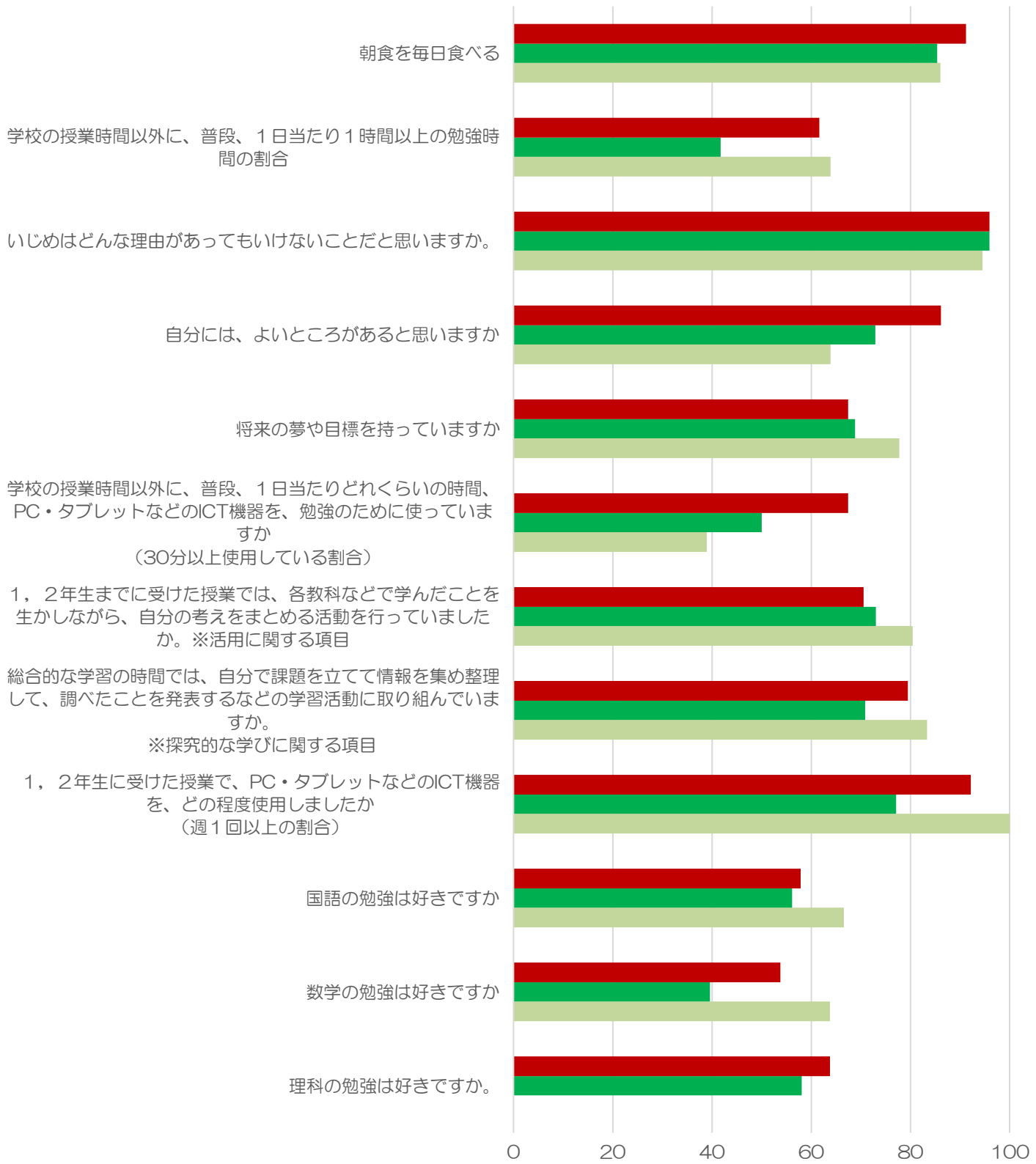
⑧児童・生徒質問紙における平均回答率の国との比較

- 肯定的回答（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」）の割合を比較
- 時間や頻度を回答する質問については、質問ごとに比較する割合を記載
- 経年で比較している質問項目のうち、令和7年度調査において質問項目から除外されたものについては、以下の表からも除外している。
- 「探究的な学び」や「活用」に関する項目を追加している。
- 回答率の比較から見られる詳細や分析については、⑨にまとめて記載する。



9年生 生徒質問紙調査

■ R7 全国 ■ R7 9年生 ■ R6 9年生



⑨ まとめ

能勢町教育委員会および能勢ささゆり学園による分析内容を総合し、以下のようにまとめ、能勢の子どもたちの学力課題の克服に向けて、授業改善等を推進する。

I 「獲得」と「定着」・「活用」から読み解く学力課題

令和6年度の分析で「獲得」と「定着」に関する課題について次のようにまとめている。

その授業の、その瞬間には「知識」や「技能」を獲得している子どもが多いのではないかと考えられる。ただし、「獲得」が「定着」につながらず、調査本番にはその力が発揮できていないという点、もしくは、「獲得」しているものを、必要な場面で「活用」できていない点こそが、克服すべき課題である

上記令和6年度のまとめを踏まえ、具体的な方策として、「活用」を意識した単元・授業の工夫および改善に向けた具体的な取組を検討、推進してきている。令和7年度の調査結果においても、引き続き同様の傾向が見られたものの、一部の調査問題の結果から、「活用」を意識した取組の工夫が「定着」につながっていることを見取ることができた。

9年生国語の「職場体験活動のお礼の手紙の推敲」に関する出題（8ページ掲載）では、全国の平均正答率を上回っている。8年生の地域事業所インターンシップの学習の中で、事業所へのお礼の手紙を書く活動を、国語の学習内容と関連付けて行っている。手紙の書き方という国語科の「知識・技能」に関する学習内容について、「活用」できる場面を設けているケースであり、これが高い正答率につながったのであれば、「活用」を意識した取り組みが「定着」につながっていると考えられる。

一方で、昨年度同様に「定着」に関する課題は、引き続き見られている。

6年生の国語では、漢字の書きの問題として「暑い」が出題された（6ページに掲載）。こちらは3年生の配当漢字である。能勢町では、2年生から4年生にかけて、全員が漢字検定を受検し、毎年、非常に高い合格率となっているが、本調査の正答率は、全国平均より10ポイント以上低い結果となっている。

9年生の数学においては、相対度数の基礎的な計算に関する問いで全国平均を大きく下回っていたのに対し、平行四辺形の証明に関する問いでは全国平均を上回る正答率となっていた。相対度数と同じデータの活用の領域の問題としては、8年生で学習する確率に関する問題については、全国の平均正答率と遜色のない結果となっている。

これらのことから、昨年度と同様に、学習してから調査までの期間の長さが正答率に与える影響が強いという傾向があったと考えられる。

令和7年度においては、探究的な学びを授業等に取り入れていくために、全職員による研修の実施や、探究的な学びのプログラムを導入するなど、具体的な取組を始めているところである。「定着」の課題を克服するため、引き続き「活用」を意識した単元や授業の工夫および改善に取り組んでいく。

具体的な方策

「知識・技能」の「活用」を意識した単元・授業の工夫および改善の継続

Ⅱ 問題文を読む力とスタミナに関する課題

令和6年度の分析の中で、問題文を読む力、資料や図表から必要な情報を探す力、またそのスタミナについての課題について言及していた。令和7年度の調査結果からも、同様の傾向が見られた。

6年生国語の、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つける問題（6ページに掲載）では、選択肢の文言が「【資料1】の一線部①」といった形になっており、一線部の内容は問題冊子で4ページ遡って探す必要のある出題だった。全国の解答類型の傾向を見ると、誤答のパターンとして2を選んだ児童が多く、正答である3と誤答の2を迷った児童が多かったと考えられる。一方で、能勢町の解答状況をみると、正答の3や、誤答パターンとして多かった2を選んでいる児童の割合が府や全国を下回っているだけでなく、他の誤答のパターンである、1や4を選んでいる児童の割合が府や全国よりも高くなっており、4つの選択肢へ満遍なく解答が分散している。この結果から考えられる状況としては、解答する際に「一線部」の内容が問題冊子のどこに書かれているのか見つけられなかった児童の割合が、府や全国より高かったということである。

いずれの学年、教科においても、複数の資料を参照し、解答する必要がある問題は多く出題されているが、いずれの問題においても府や全国の平均正答率を下回っている。ページをまたいで資料を探さなければならない問題については、特に正答率が低くなっている。

このことから、解答する際に必要な資料を探し、情報を結び付けるなどするための読む力や、すぐに見つけられなかった時に粘り強く探したり、何度も読んだりするスタミナに関して課題があると考えられる。

こういった課題を解決するために、問題を解くために必要な「認知機能」に着目した。

「認知機能」とは、「記憶力」「言語能力」「判断力」「計算力」「遂行力」と5つの力に定義され、特に「言語能力」については、相手が話すことや書かれている文章を理解したり、自分の意思を文字や言葉にして伝えたりするために必要な力である。

こういった「認知機能」を高めるためのトレーニングを、低学年から積み上げることで、文章を読む力を底上げできればと考えている。

具体的な方策

「認知機能」とりわけ「読む力」を鍛えるトレーニングの実施

Ⅲ CBTへの対応とICTの活用に関する課題

令和7年度調査では、後期課程の理科がCBTでの実施となった。令和8年度においては英語科がCBTで実施され、令和9年度からはすべての教科がCBTによる実施となる。

また、GIGA2期における児童生徒用の1人1台端末が更新され、より一層のICTの効果的な活用が期待されている。

令和6年度の調査では、児童・生徒質問紙の「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問において、6年生、9年生ともに「週1回以上使用している」と解答した児童生徒の割合は、全国よりも高かった。特に9年生においては、全国を大きく上回っていた。しかし、令和7年度においては、6年生、9年生ともに府・全国を下回っている。

この結果から学年等により、使用頻度に差があるという課題が見えてきた。

また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という探究的な学びに関する質問では、肯定的回答の割合が令和6年度に比べ低下している。探究的な学びを進める中で、情報収集や発表場面を中心に、ICT機器の活用は、今や必要不可欠である。このことから、ICT機器の活用頻度が探究的な学びに関する質問の回答結果と、連動していると考えられる。

さらに、「算数（数学）の勉強は好きですか」という項目において、全国平均を下回り、昨年度と比較しても低下している。算数・数学において一つ一つの授業で知識・技能の「獲得」に向けて、問題演習、反復学習等に時間を割いており、探究的な学びを軸とした単元構成の組みやすい国語や理科と比較し、「算数（数学）が好き」という回答には結びつきづらかったと考えられる。また、問題演習、反復学習において、より多くの数をこなすには、認知負荷的な観点から、デジタルよりもアナログの方が効率良く取り組める場合もある。こういった点から、ICTの活用場面の減少につながっていると考えられる。

学校以外での学習時間についても引き続き課題が見られる。特に9年生においては、全国・府と比べて開きが見られる。学校外での学習時間の充実に向けて、デジタルドリルの積極的な活用が期待されるところであるが、ICT機器の活用頻度の低下と併せて、家庭学習の時間も短くなっている。

このように、子どもたちの学びの充実を図る上で、ICTの日常的、効果的な活用は、他の様々な要因とも関わっていると考えられる。ICT機器を使うことが目的になってしまわないように気を付けながらも、GIGA2期の端末の入れ替えや、それに伴うICT機器が効果的に使える環境の整備・充実を進めていく。また、教員がICT機器を使いこなすためのスキルを高める研修等についても実施していく。

後期課程における生成AIの活用や、教員の業務を効率化させるための様々なツールが次々とリリースされる中で、デジタル化の波に取り残されないように、組織的な取り組みとしてICTの利活用を推進していく。

具体的な方策

ICTの組織的な利活用を推進するための環境の整備と研修の実施